

2025年度

G n 日 本 語 問 題

注 意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙はすべて黒鉛筆または黒のシャープペンシルで記入することになっていま
す。鉛筆またはシャープペンシル・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は8頁までとなっています。試験開始後、ただちに頁数を確認してく
ださい。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、あなたの受験票の番号であ
るかどうかを確認してください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけ
ません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

I . 次の文を読み、下記の設問A～Iに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

「忙しい」という字は、心を亡と書きますが、現代では「脳を失う」と言い換えてもいいのかもしれませんが。

「一度にたくさんの仕事をたのまれる」

「過密スケジュールでいっぱいいっぱい」

こうなると、ミスが増える、物忘れが多くなる、イライラしやすくなるなど、脳機能の一時的な喪失現象が現れてきます。

忙しくて「脳を失う」ことは、正確には「ワーキングメモリの機能低下」を意味します。

ワーキングメモリとは、段取りをつける能力、あるいは何かを（イ）情報やしゅういの状況を短時間だけ記憶しておく、パソコンでいうメモリのようなものとされています。主に、大脳の前頭前野がワーキングメモリをつかさどっていると考えられています。

段取り能力や同時進行能力の中樞なわけですから、仕事のふかが重くなってくると、ワーキングメモリの処理能力も落ちてきます。具体的には、会話や状況が流れていく中で、ついさっき言われたことや気づいたことが、頭に入りません。直前のことが記憶できなくなると、次に何を言えばいいのか、何をしたらいいのかの判断が（ロ）なってしまいます。

ワーキングメモリのはたらきを一時的にでも失ってしまうと、記憶力、判断力、ひいては感情コントロール能力までもが、ダメージを受けることになります。（ハ）、あまりに忙しいと、「脳を失う」ことになりかねないのです。

過剰ふかによってダメージを受けたワーキングメモリを復活させるいちばんの方法は、「休む」ことしかありません。休憩、いきぬきによるリラックスが、ワーキングメモリの回復には、副作用もなく、しかも効果的です。

現代医学（ニ）、ワーキングメモリの機能を高める薬剤は、残念ながら発見されていません。しかし、もしそういう薬剤があったとしたら、人間は休む大義名分を失ってしまいかねませんよね。つかれていても、「ワーキングメモリ回復剤でも飲んで頑張り」と言われてしまいそうです。

市販されている栄養ドリンクにも、交感神経系を高めることによって、一時的にはワーキングメモリを高める効果は、実証されていないにせよあるかもしれませんが。しかし、一時的な効果に限定されるでしょう。

忙しいとき（ホ）、「休む」が効くことを再確認しましょう。しっかり休暇を満喫するだけでなく、日常のちょっとした休憩や仮眠でさえも、ワーキングメモリを

(へ) 効果としてはバカにできません。

「ちょっと栄養ドリンクでも飲んで頑張ろう」

と気合いを入れなければならないときもあるでしょうが、無理に頑張る前に「どこかで休憩できないかな」と考えることが、医学・科学の観点からも勧められる対処法です。こころも脳も失ってしまう前に、ちょっとした「⁵⁾休み」でワーキングメモリの機能をチャージしておきましょう。

(西多昌規『休む技術』による)

A. 文中の下線部() 1)～5)の読みをひらがなでしるせ。

B. 文中の下線部() i)～v)を漢字でしるせ。

C. 文中の空所(イ)にあてはまる適当な語句を、次の語群の中から1つ選んでしるせ。

[語群] しかけて したのち してから しながら しようと

D. 文中の空所(ロ)にあてはまる適当な語句を、次の語群の中から1つ選んでしるせ。

[語群] 追えなく 押せなく 下せなく 差せなく 取れなく

E. 文中の空所(ハ)にあてはまる適当な語句を、次の語群の中から1つ選んでしるせ。

[語群] あくまで かえって かなり まさに やっと

F. 文中の空所(ニ)にあてはまる適当な語句を、次の語群の中から1つ選んでしるせ。

[語群] にあたって も においても にかけて も についても
によっても

G. 文中の空所(ホ)にあてはまる適当な語句を、次の語群の中から1つ選んでしるせ。

[語群] しか だけ ばかり ほど のみ

H. 文中の空所(ヘ)にあてはまる適当な語句を、次の語群の中から1つ選んでしるせ。

[語群] 取り返す 取り付ける 取り繕う 取り直す 取り戻す

I. 文中の下線部 「休む大義名分を失ってしまいかねません」はどのような意味か。もっとも適切なものを1つ選び、その番号をしるせ。

- ①休むことの重要性を人々に広く伝える制度や機関がなくなってしまうかもしれない。
- ②法律で保障されている働く人の休む権利がなくなってしまうかもしれない。
- ③休むことで確保できていた自分のための時間がなくなってしまうかもしれない。
- ④休むという行動が正当で必要なことを示す根拠がなくなってしまうかもしれない。
- ⑤休まずに働ける人だけが仕事を得て社会の公平さがなくなってしまうかもしれない。

II. 次の文を読み、下記の設問A～Gに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

人間は既存のルールの中で生きている。そして、多くの社会ではルールを正当化する手続きが定められており、この手続きに従って定められたことは「正しい」のだとされる。そして、その手続きはそれぞれの社会や国ごとに定められており、手続きを実行するための機関がある。さらに、決められたルールを人々に強制するための機関も備えている。

こうしたことから、「正しさは社会により異なる」とか「国により異なる¹⁾」と言いたくなるかもしれない。しかし、そうした差異は、理解不能なほどに多様なものではないのが通常だ。実際問題として、現在では民主的な価値観や基本的人権が世界的に「正しい」と認められているため、多くの国の法律はそれほど（イ）ものにはなっていない。

むしろ今私たちが考えなければならないことは、ルールを正当化する手続きの正しさについてだ。

「正しさ」は、ある行為²⁾に複数の人間が関わる時に、その人たちの間で合意が形成されることで成立する。当事者が関わらないところで勝手に決めたルールを強制することは、それ自体として不正だ。

もちろん、全国民が一致して合意するなどということは現実的にこんなんだ。そこで、現在のほとんどの国では代議制民主主義が採用されている。この制度では、議員が普通選挙で選ばれる限りは、法律に従う立場の人たちの代表者が法律を制定していることになる。その点で、代議制民主主義には一定の正当性があるといつてよい。

それに、議会での議論は公開されているので、議員以外の一般市民はその様子を見聞きして、なⁱⁱ⁾とくできるものかどうかを判断することができる。そして、なⁱⁱ⁾とくできない主張をした議員を次の選挙で落選させることもできる。

しかしやはり、代表されていない立場の人たちも多数いる。それどころか、議会においてさえ、代表者全員がなⁱⁱ⁾とくして合意するまで話し合われないままに、強行採決によって可決されることがままある。そのようにして定められた法律を無造作³⁾に「正しい」と（ロ）ことは、合意していないままに従わされる人たちへの暴力³⁾を無造作に肯定することになる。

もちろん、自分がなⁱⁱ⁾とくしない法律には従わなくてよいということにはならない。しかし、なⁱⁱ⁾とくできない法律は批判し、その改正を求めていくことはできる。また、ある法律が含んでいる暴力に自分自身では（あ）なくても、それに苦しめられている人の声を聞いて（い）こともある。そうして（う）しまったときには、たとえ他国のことやむかしのⁱⁱⁱ⁾ことであつたとしても、「正しさ」を問い返し、「より正しい正しさ」を

実現するように努力していくべきだろう。

「正しさは人それぞれ」と並んで最近よく聞く言葉に、「絶対正しいことなんてない」とか「何が正しいかなんて誰にも決められない」などというのがある。これらの言葉を言う人たちは、どうやら「ちょっと気の利いた、よいことを言っている」と思っているようなのだが、私はこうした言葉を聞くたびに背筋⁴⁾が寒くなる。こうした言葉は、より正しいことを求めていく努力をはじめから放棄⁵⁾する態度を示しているように思われるからである。

どんなに話し合っても、国民全員が、さらには人類全員が合意することはないかもしれない。たとえいま生きている人たち全員が合意したとしても、まだ生まれていない人は合意していない。その意味では、「絶対正しいことなんてない」のかもしれない。しかし、「より正しい正しさ」はある。一方的に決めたルールを暴力によって強制するよりは、話し合ってお互いになっとくして決めていく方が正しいし、これまで正しいと思われていたことに対して、その不正を告発する人たちの声が聞き入れられ、改正されたときには、より正しいものになっているだろう。

もちろん、「不正の告発」それ自体が不正なものである場合もあるだろう。自分が悪いのに、それを認めずに他人のせいにする人もいる。そうしたとき、相手を尊重するとは、単に相手の言い分を丸呑みすることではない。なっとくできないことを言っているのに「人それぞれ」といってきちんと反論しないのは、相手を尊重する（ハ）バカにすることだ。まずは相手の言い分をよく聞き、それがもっともだと思えば従い、おかしいと思えばしてきし、相手の再度の言い分を聞く。それを繰り返すことで、お互いになっとく^{iv)}のできる合意点を作り上げていく。これが、正しさを作っていくための正しい手続きといふべきだろう。そうした手続きによって、より正しい正しさを実現するよう努力していくことが大切だ。

私が「人それぞれ」という言葉にこだわるのは、そうした努力をしないで済ませる態度を助長するからだ。もちろん、趣味やこの^{v)}のみなど、他人と同じにしなくてもとくに問題ないようなことについては「人それぞれ」でけっこうだが、そうでないこと、他人を巻き込むことについては「人それぞれ」で済ませるわけにはいかない。他人と合意を作っていかなければならないことについて、「人それぞれ」などといって十分に話し合う努力をしないでいると、社会は分断されてしまう。分断された社会で何かを決めようとするれば、結局のところ暴力にたよるしかなくなってしまうのだ。

（山口裕之『「みんな違ってみんないい」のか？—相対主義と普遍主義の問題』による一部改変）

A. 文中の下線部(1)～(5)の読みをひらがなでしるせ。

B. 文中の下線部(i)～(v)を漢字でしるせ。

C. 文中の空所(イ)にあてはまる適当な語句を、次の語群の中から1つ選んでしるせ。

〔語群〕 かけ離れた すれ違った とび越えた
なり変わった もの分かれた

D. 文中の空所(ロ)にあてはまる適当な語句を、次の語群の中から1つ選んでしるせ。

〔語群〕 見あう 見いる 見きる 見こす 見なす

E. 前後の文脈から、「気づく」という動詞を適切な形にして空所(あ)、(い)、(う)にしるせ。

F. 文中の空所(ハ)にあてはまる適当な語句を、次の語群の中から1つ選んでしるせ。

〔語群〕 あまりに うえに かぎりまで どころか ばかりか

G. 筆者は「正しさは人それぞれ」という姿勢では社会が分断されてしまうと述べています。なぜ、そのような姿勢では社会が分断されてしまうのかを述べたのち、そのような社会にしないためには、私たちがどのような姿勢でどのような行動をとるべきなのか、あなたの考えを述べよ。

【以下余白】